防府市中心市街地活性化協議会　ビジョン検討会・意見交換会

における発言内容及び提案

平成 29 年 6 月

都市環境デザイン会議（ＪＵＤＩ北前船プロジェクト）

目　次

はじめに …… 1

参加者による発言内容及び提案 …… 2

１．伊藤 登（㈱プランニングネットワーク） …… 3
２．井上 洋司（㈱背景計画研究所） …… 4
３．岡　絵理子（関西大学 環境都市工学部 建築学科） …… 6
４．河崎 泰了（㈱竹中工務店 名古屋支店） …… 7
５．工藤　勉（ヨシモトエンジニアリング㈱） …… 8
６．須田 武憲（㈱ＧＫ設計） …… 9
７．高見 公雄（法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科） …… 11
８．冨岡 仁計（㈱住軽日軽エンジニアリング） …… 12
９．埒 正浩（㈱日本海コンサルタント） …… 14
10. 尾辻 信宣（Ｇ計画デザイン研究所） …… 15
11. 栗原 裕（(有) ユー・プラネット） …… 17
12. 藤本 英子（京都市立芸術大学） …… 19
13. 五百田 定（(有) ワクテク） …… 21
14. 伊藤 幹郎（ＩＭＥＡ計画設計事務所） …… 22
15. 三木 脩平（ランドブレイン㈱） …… 23
16. 横田 宜明（㈱エイト日本技術開発） …… 25
17. 中村 和泉（都市環境デザイン会議 事務局） …… 27

はじめに

この度は、「防府市中心市街地活性化協議会　ビジョン検討会・意見交換会」を開催して頂きました防府市中心市街地活性化協議会、防府商工会議所、特定非営利活動法人 防府まちコミュ、防府市役所の皆様に御礼申し上げます。

私たち都市環境デザイン会議（ＪＵＤＩ）は、まちづくり、建築、土木、ランドスケープ、照明デザイン、コミュニティデザイン、各種メーカーに所属する専門家、学識経験者などが参加する全国組織の団体です。都市環境デザインに携わる様々な分野の人々が結集し、ネットワークを確立するとともに、よりよい都市環境を形成していくために、1991 年 5 月 11 日に設立しました。

今回は、ＪＵＤＩの新規事業である「ＪＵＤＩ北前船プロジェクト」の第一回として、防府市を訪問させていただきました。このプロジェクトは、地域でまちづくりや市街地活性化などの支援を行っているＪＵＤＩ会員（ＨＯＳＴ）の要請に基づき、全国のＪＵＤＩ会員がＨＯＳＴに対する支援を行うことで、ＨＯＳＴを通じて全国の都市環境問題解決の支援を行う取り組みです。今回の場合は、ＪＵＤＩ会員である山﨑洋二さんがＨＯＳＴとなり、調整をして頂きました。

このプロジェクトが地元の皆様にとって、多少なりとも参考になればと思い、参加者全員がビジョン検討会での発言内容や活性化のための提案をレポートにまとめました。各々専門や価値観が異なることから、一貫性のあるまとまった内容ではないと思いますが、ご一読賜れば幸いです。

また、ＪＵＤＩでは、公募型プロジェクトという制度があり、応募 1 件あたり僅か 10 万円の助成金となりますが、現在、申請を受け付けております。原則 1 年間を遂行期間としますが、3 年間にわたることも可としております。防府市中心市街地活性化の一助として、活性化協議会や商工会議所、防府まちコミュなどが主体となり、社会実験などに活用することをご検討され、山﨑さんと一緒に応募されることをご提案いたします。

最後になりますが、私たちＪＵＤＩを快く受け入れて頂きました皆様に改めて感謝申し上げますとともに、防府市中心市街地活性化の成功を心から祈念いたします。

平成 29 年 6 月吉日

都市環境デザイン会議　参加者一同
（ＪＵＤＩ北前船プロジェクト）

参加者による発言内容及び提案

（現地視察風景）

JUDI 北前船プロジェクト　防府

伊藤　登（㈱プランニングネットワーク）

潜在的な資源を顕在化することで、まちは格段に魅力的になり得る

①まちづくりへの水の活用

まちを案内していただいている際に、防府は水が豊かであると聞いた。しかし、水路は大部分が暗渠化されており、それを実感できる場所が少ない。

■萩往還の下にも水路があるが、水が見られるのはごく限られている

清冽な水は、人を引き付ける。商店街においては、荷捌きの問題もあるだろうが、駐車場となっている空地も多く、自慢の水を上手く活用できると思う。これまでも検討されたことはあるのだろうが、まちの歴史を生かす取組みが全国的に進んでいる今日、今一度まちづくりにおける水の活用を考えてみてもよいと思う。

②街並みの再生

今の商店街は、古い家屋の前面にパラペットを立ち上げた典型的な昭和の商店のスタイルであり、これらがつくられた当時は古い家屋は時代遅れで、このようなパラペット建築がモダンであった。しかし、今は逆に古い建物が人々に魅力的に捉えられる時代である。多くは先代から引き継いだ店舗であり、その中にどのような表情があるのか見たことがないケースも考えられる。

私の知っているまちでは、このようなパラペットを取り払って、古い家屋をみせる取組みがなされている。パラペットの裏から蔵がでてくることもあり、まちに新たな魅力が生まれてきている。このような小さな取組みからはじめてみるのも良いと思う。JUDI の公募制プロジェクトは、このような取組みを支援しているので、その活用も考えてみてはどうだろうか。

③土地家屋の流動化

北の復興のケースでは、まちの中に人が住めないのは、要望があっても地主や家主が売らない、貸さないケースが多い。結果、まちなかが空洞化している。防府の状況は、わからないが、土地家屋の流動化の問題については、山崎マネージャーとともに検討してみる価値があると思う。

新たな PRIDE OF PLACE を求めて／ランドスケープからみた防府の街
～3 大天満宮の緑につつまれた学問と文化の薫る街～

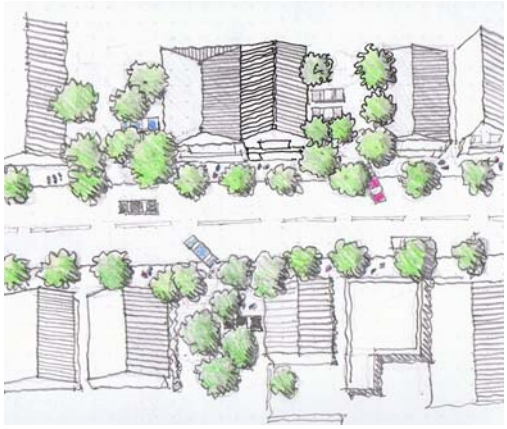
井上洋司（㈱背景計画研究所）

いろいろ指摘しましたが、一点のみこうあるとすばらしい、他の街には出来ない「天満宮の街」というものを提案します。**駐車場や空き地がおおい事を利用した提案です。**この現象を活性化していない事の証のようにとらえることも出来ますが、様々な可能性がある事と、とらえることも同時にできます。

例えば森の駐車場（駐車効率を 30％下げて）をつくり、天満宮／「学問の街」らしく、緑につつまれた街を創れるのではないでしょうか？

スケッチ 1

スケッチ 2



（拙著／共筆「まちを再生する 99 のアイデア」／彰国社より）

木々は四季折々の変化を街に与えるのと同時に、街の人たちが協力し合わなければ、その育成はむずかしいものです。中心が過疎化しているいまこそ、この場所を嘗ての天満宮の門前として、学問の街としてふさわしい、文化の薫る街にしてはどうでしょうか？海と山の幸が共存する姿を再生する事が、結果として多くの観光客、旅人の心に留まる街になる筈です。少し交通便がよく

ない事はむしろ財産であると思います。これに水路等の景観的な資産（これには、景観資産の調査／景観調査をする事をお勧めします）を活用する事で、新しく且つここにしかない PRIDE OF PLACE を生むことになるでしょう！

春風楼からの眺め（現状）

将来の姿イメージ（マンション建設を押さえ、緑の駐車場と低中層の住宅地として整備すると／現実には無理ですがいくつかのマンションを消しています！）

防府まちづくりへのメッセージ

岡　絵理子（関西大学 環境都市工学部 建築学科）

防府ではまちあるき案内から、懇親会まで、ありがとうございました。

防府のまちづくりについて、感じたことをお伝えします。簡単にいえば、駅前市街地の整備より、まずは、三田尻と防府天満宮周辺の再整備の必要性を強く感じています。

１）防府の市街地形成は、海に近い港である三田尻と防府天満宮を中心とした山沿いの市街地を、萩往還がつないでいます。この二つの市街地の中心に位置するのが防府駅で、駅を中心とした市街地は主に第二次世界大戦後の高度成長期に形成され、賑わったのではないかと思います。その歴史は短く、建物は昭和のものが多くを占めて、歴史的建築物として保存の対象ともならず、市街地は空き地へ戻っているようです。このような経緯を考えれば、防府駅はもともと市街地の郊外に位置する駅と位置付けられます。

まず、このような市街地履歴から考えた防府駅周辺の位置付けを明確にすべきだと思います。

２）防府駅前は、１）で示したように新しい市街地で、街の衰退とともにまた消えていきつつあるということだと思います。現在の駅前のゆったりした広場は、郊外駅としての特性を十分に生かした、とても質の高いものと思います。このエリアを今後どのように整備するかは、２つの江戸時代からある既成市街地との関係を十分に考えて、ゆっくりと考えるべきだと思います。

３）今駅周辺で進んでいる高層集合住宅の建設が、本当に防府の駅周辺のまちづくりにとって良いことかどうかは、よく考える必要があります。わたしは、区分所有の大規模集合住宅を建設することは、街の更新の動きを悪くするという意味で、あまり良いとは思いません。また、景観的にも優れたものではなく、もっと防府の駅前にふさわしい、人の姿が見える住まいのあり方が考えられると思っています。

４）重要なのは、２つの江戸時代からつづく既成市街地を今後どのように修復していくかです。防府天満宮を中心とした東西の街道は、水路、建物などの資源も多く、様々な整備の可能性が考えられます。三田尻は、すでに歴史的資源が残っていないようなので、英雲荘を中心に再建していく方法が考えられます。基盤（街区や道）が残っているので、十分に整備可能と思います。

５）遠方からのツーリストは、従来通り新幹線で来て観光バスという形も多いとは思いますが、多様化しており、自転車でやってくるひとや、ランニングや歩くことを目的に来る人もいます。健康志向の影響です。このような人たちが２つの街を回りやすいように、「萩往還」を整備する必要があります。商店街や自動車移動のための道で２つの町を結ぶのではなく、歩きやすい道、途中の休憩場所（コンビニ誘致を含む）などを整備することで、移動しやすい道としての整備です。

以上

20 年後に、さらに「訪れたいまち防府」に生まれ変わっていることを心からお祈りします。

ありがとうございました。

河崎 泰了（㈱竹中工務店 名古屋支店）

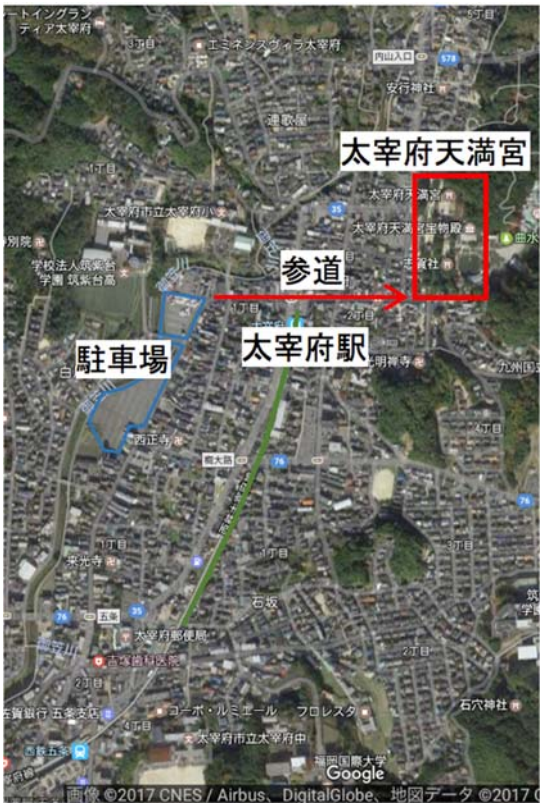
当日の見学会では、時間の関係で車で天満宮の近くの駐車場からのアプローチとなってしまいましたが、本来天満宮への参拝は、門前町を通り、鳥居をくぐり聖域に入り、お参りを済ませて、最後に門前町で食事やお土産などの買い物などをして帰るというものだと思います。

車の便がよくなって、直接天満宮近くの駐車場を使い、そのまま帰ってしまうという事になってしまいます。正月も大規模駐車場が奥にあるようで、そこから直接お参りという事で、門前町に人が歩かない構造で、その結果門前町に賑わいがなくなってしまうという事になっていると思います。

車社会の現代では、自動車は欠かせない状態でありますが、ちょうど門前町周辺も、空地が目立っているので、そこに駐車場も確保できると思います。さらに緑多い駐車場として景観など演出する事から始め、そこにオシャレなカフェなどつくり、まず食事をして、そこからお参りに行くなど、ストーリーをつくって、門前を歩くような理由づけをつくる事が大切かと思われます。駐車場のあり方が課題となると思いますので、まずそこから議論を進めていただければと思います。

太宰府天満宮と比較すると、太宰府はきわめて町の構造がコンパクトで参拝客は必ず参道を通り天満宮にお参りするような構造になっている事がわかります。さらに西鉄太宰府駅も参道の中にありますので、より交通の便がよい事がわかります。太宰府天満宮の参道は 300m とちょうどよい長さです。

観光施設などへは車移動が前提ですが、歩く部分も考えていただければと思います。



防府市の視察

工藤　勉（ヨシモトエンジニアリング㈱）

防府市への訪問は天満宮前参堂の街路灯を設置してから 10 数年振りでした。現在も山頭火通りの街路灯を設置しており、防府市は街路灯メーカーの私にとって関わりのある街です。また、20 年程前の駅前整備事業への営業活動や市内の国土交通省への営業をしていた関係から強い思いを持って訪問した。

現在、駅前広場の左側には親水出来る川のせせらぎが整備されており、川に対する市民の強い思いを感じた。天満宮付近にも相当な水量の小川があり川、水との関わり合いが深い街と感じられた。しかし、150 年続く精米店あたりから川を暗渠しておりせっかくの親水が台無しになっている。ちょうど駅前整備と同じ時期に暗渠の撤去も検討されたようだが、商店街や地元住民からの反対で叶わなかったとか。整備計画する役所と市民の日常生活への不便さから、思いの差があったのかもしれない。

また、防府といえば毛利との関係が強いと思っていたが、今回の中心市街地検討にはまったく毛利の名前が出てこないのは不思議に感じた。毛利庭園や毛利ゆかりの地との連携も外から来る観光客には魅力的だと思うのだが。また、萩往還を利用した街づくりも可能なのではないかと思う。

駅前の親水地区

JUDI 北前船プロジェクト in 防府

須田 武憲（㈱ＧＫ設計）

1. 現地視察での気づきと景観資源

■豊かな伏流水の気配

市内を歩いていて、まず気がつくのは伏流水の豊かさ、足元に水の気配をひしひしと感じることである。水路の暗渠化が相当に進んでいるが、水路などの水面が表出している場所で圧倒的な水量が動いているのを見ると、地面の下をながれる水の量に思いを馳せてしまう。

■地下水位の高さと緑のカタチ

まちの緑を見て感じるのは、伏流水の豊かさと同時に地下水位の高さである。それは街路樹の樹形に現れている。

一般的に木は地上部分の樹形と根の形状が一致すると言われているが防府の街路樹は、ケヤキやクスノキなどの大型の樹木でさえ、あまり上方向には伸びず、横方向に樹冠を広げており、それは地下水位が極めて高いことの証左である。

■奥行きを感じさせる商活動と食文化

まちを巡って気がついたのは、多くのハイセンスな飲食店やショップの存在である。歴史のある商建築や民家を適度にリノベーションし、アート活動のギャラリー兼飲食店などに改修しながらも、まちの景観に対して極めて親和的なファサードを形成している。メニューもこの地方の醸造文化を取り込んでおり、文化のショーケースとして極めて重要な要素である。

■歴史資源の見えにくさ

一方で防府天満宮や毛利庭園などの歴史的文化財に恵まれているにも拘らず、駅前や市街地の中では、それらの存在感やイメージがほとんど感じられなかった。物理的距離がそれなりのあるのは確かだとしても門前町としての都市景観が少し整えたほうがよいと感じた。

2. 都市景観再生のための提案

■豊かな水資源の見える化ーー水の回廊

これだけ豊かな水資源は本当にそう簡単には手に入りません。現代社会は便利さと引き換えに多くのモノを失ってきましたが、特に今の若い世代は本質的な価値を直感的に嗅ぎ分ける能力が高いと思

います。これからの世代のためにも、覆ってしまった水路や水場を少しずつでもよいので復活させ、水資源の本質的価値の見える化を図っていただきたい。ぜひ水を巡るまちーー「水の回廊」を再生してください。

■地下水位の高さを利用した緑の展開ーー緑の天蓋

セッションの中でも議論されましたが、駅前広場の緑が印象的な割に街中の緑の少なさが気になりました。

一方で多くの空き地が手付かずで放置されている状況もあります。景観資源でも触れましたが防府の樹木は、地下水位の高さからあまり上方に伸びず、樹冠を大きく形成します。駅前広場だけでなく、空き地を「緑の圃場」として活用し、ぜひ緑に覆われるまちーー「緑の天蓋」の形成を目指していただきたい。

■活動の支援とイメージのネットワーク化

古くからの民家や商店を改修し、歴史ある空間や文化の感じられるメニューなどで豊かな時間を提供するショップや店舗が増えつつあると感じました。そこに多くの人が訪れています。中活のモデル事業とはなりにくいこうした個別の活動をぜひ丁寧にすくいあげ、歴史拠点とのネットワーク形成と連動させて、まちなか回遊人口の増大を図っていただきたいと思います。

3.　おわりに

まちを半日巡っただけのよそ者が勝手な提案をさせていただきましたが、たった半日ですが防府のポテンシャルや魅力を実感できました。また「幸せます」の響きのよさ、皆様のホスピタリィの高さに感じ入りました。

この度は本当にありがとうございました。

町は人々に何を与えるべきか

高見公雄（法政大学 デザイン工学部 都市環境デザイン工学科）

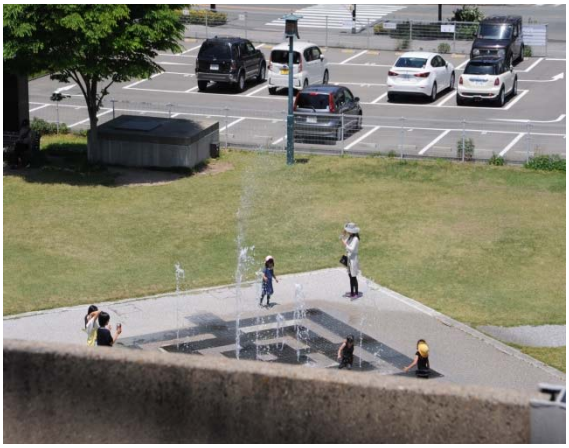
１．Judi 北前船の出航

何で北前船か、それは現代日本において地方都市の街づくりに焦点をあてた人と情報の媒体としての Judi の活動であるから。江戸時代においても、北前船はモノだけでなく情報を運んだであろうから。

２．豊かさと思い出と

防府の紹介をいただくと、天満宮、萩往還の港三田尻といった歴史的位置づけと、現代についてはマツダ、ブリジストン、協和発酵などの基幹工場の存在が合わせて出てくる。20 世紀末の駅周辺拠点開発の時代には JR 線の連続立体交差事業に加え、定住拠点緊急整備事業による面整備と関連拠点施設整備が進められ、整然と整備された駅前の緑などの管理状況は良好である。一方、今回の主たる意見交換のテーマであった「中心市街地活性化」。確かにかつての中心市街地と案内された場所は、空き家と空き地の集積地に変貌している。「空き地が多いということは、これからの姿を自由に描けることですよ。」といった考え方もあろうが、現実の景色は悠長に構えてはいられない。また、天満宮を中心とする歴史的事物や街並みの痕跡は十分ではなく、歴史的な街といった風情はそうは感じられない。

そこで考え込んだ。歴史的街並みと現代的産業の両立が図られている都市はあるのか。近代以降でよければ神戸、横浜といった名が挙げられようが、近世以前とすると京都くらいか。歴史的な街並み、または街の風情というものは現代生活に馴染まないのではないか。人々は毎日、よりよい暮らしを目指し勤勉に働き、暮らしている。そういった面において歴史の風情ある街づくりって何なんだろう。昔を思い出したりなんかして、一瞬の気持ちよさに浸っているだけなのかも知れない。



拠点整備の成果はきちんと日常生活の中で活用されている。芝生、噴水ともきちんと維持できている点に着目すべき

３．全く無くなっていいとは言わない

かつての中心市街地や歴史ある街の活性化が不要とは言わない。ただ、現在この町に暮らす人々は堅調な産業のおかげで十分に幸せなのだと思う。そういった堅固な基盤を持つからこそ、＋αとしての風情や思い出を大事にすることができるのだろう。そのような順序で考えれば、この街の可能性は拡がると考えた。

JUDI 北前船プロジェクト in 防府を終えて

冨岡 仁計（㈱住軽日軽エンジニアリング）

日本の幾つかの都道府県において、文化圏毎で分裂している地域があると思う。例えば、愛知県の東、三河文化圏属する静岡県浜松市周辺、青森文化圏に含まれる岩手県南部地域などが上げられる。この度訪問した山口県はさらに分裂しており、広島文化圏と九州文化圏、さらに日本海側山陰地域に分かれている印象がある。非常に乱暴な見方であるのは十分に承知しているが、私には山口県は一つには見えない。要因は様々あると思うが、ひとつは山口県を一言で語れないということ、逆にいうと「山口」から連想するイメージが象徴的なひとつにはならないということであろうか。そんな山口においてこの度の訪問先である防府は、その中でも想像しにくい地域に思える。しかし、私が見た防府には魅力的なシーンが少々埋没気味ではあるが多数存在していたのも事実であった。

この防府の魅力の筆頭は、言うまでもなく防府天満宮であろう。ただ、ここにこのまちに潜在する問題のすべてが詰まっていることも同時に感じた。防府到着後、天満宮までご案内いただいたが、いきなり神前の境内に直結する駐車場へ通された。通常は参拝の作法として街並み→門前町→参道→天満宮の順であろう。そして、この順序で巡るから春風楼からの眺望に意味を感じるのであろう。確かに境内までの階段はきつい。だから参拝する意味があり、上ることで高さを感じる。車で上ることで高さのありがたさは希薄となり、高層マンションに対する警戒心が弱くなる。駅前再開発事業及び町中で進められているマンション計画を、誇らしげに語られた姿を見て、天満宮を見ているか、まちのシンボルと思っているか、本当に観光客を呼び込みたいと思っているかなど、まちの方々の本意がどこにあるのか判らなくなった。見学後の意見交換会で出た「まちづくりの方向性がわからない」との相談は、この問題を顕著に表している一例と思う。私の回答としては「駅前空間に広がる公園を含めたフリースペースは、どこを見ても防府ならではの価値に見える。都会では決して味わえない、公共空間の中で得られるパーソナルスペースで過ごす友人や恋人との時間に、防府が目指すまちの魅力があると思う。」と述べさせていただいたが、この回答の前に「天満宮の門前まちとして」と付け加えておきたい。

先に述べたが、私が見た防府には魅力的なシーンが多数存在した。清掃の行き届いた町並み、大きく育った樹木、参道を中心とする商店街、隠れ家的な路地、若者が新たに展開する店舗、小さいが美しく整った神社、その中の小さな土俵など、どれも適度に人の手が入っており、決して捨てさられた感はない。行うべきはこれらの小さな活動や場所をつなげることであると思う。つなげることで新たな可能性は生まれ、活性するように思う。

最後に、JUDI 北前船プロジェクトは「豊富な経験」のみを積荷として出港した。その第一寄港地では「つなぐこと」の大切さを新たな積荷として得られたように感じる。これは、奇しくも北前船がおこなっていたことそのものであり、この「つなぐこと」をコンセプトとした本プロジェクトとしては、上々の船出であったとおもう。しかし、なにを荷下ろしして利益を得たか、と問われると、そのものに価値がつくまでしばらくかかることも認識せざるを得ないのも事実ではある。

木陰で足を投げ出して座るご婦人

若い方の経営と思われる飲食店

防府市中心市街地活性化ビジョンについて

埒　正浩（㈱日本海コンサルタント）

１．ターゲットを明確にする

「来たい」「住みたい」まちをコンセプトにしておられますが、では、誰に来てほしいのか、誰に住んでほしいのか、そのターゲットを明確にされてはいかがでしょうか？

「来たい」まちとは、インバウンドなのか、それとも国内の旅行者なのか、防府市民なのか、ターゲットによって、施策も異なってきます。例えば、防府天満宮の門前町「学問のまち」として考えるならば、受験生やその保護者などがターゲットになると思います。

次に、「住みたい」まちについても、高齢者や若者、単身やファミリーなどターゲットによって、居住空間の考え方は異なります。例えば、空き家については、居住者の意向を踏まえながら、リノベーションなどにより再生・活用が求められます。一方、空き地については、比較的簡単に利用できるものと時間のかかるものがあると思いますので、まずは、オーナーと相談しながら、社会実験などを行い、仮設的にでも活用されることを提案いたします。

また、まちなかには、多くのマンションの立地が見られましたが、高層のマンションは建替え時に課題を残すため、戸建てや中低層の集合住宅を主とされることを提案します。

２．まちづくりのプレイヤーになる

中心市街地活性化においては、様々な関係者が参画されて、事業構想を策定されていますが、プランニングだけでなく、各々がプレイヤー（事業の推進役）になって、活性化を担って頂くことが何より大切かと思います。まちづくりのベクトル（方向性）を共有し合い、各々がプレイヤーとなり、出来る範囲で楽しみながら参画されることが大切です。

３．用水路を地域資源として活かす

中心市街地には、豊かな水量の流れる用水がありました。これも大切な中心市街地の地域資源です。私の住む金沢市では、まちなかに多くの用水が流れています。その用水路は、かつて蓋を掛けられたり、私有橋が架けられたりして暗渠化されていました。しかし、地元住民や行政の方々の努力によって、開渠化が進められ、今ではまちなかの魅力の一つとなっています。

防府市でも出来るところから、用水路の開渠化を行ってはどうかと提案いたします。

（出典：金沢市ホームページ）

防府市中活ビジョン案についての提案

尾辻信宣（G 計画デザイン研究所）

●『防府天満宮で幸せます』のキーコンセプトは、素晴らしい！

“幸せます”は、防府の地域性を元に考え出され深い意味が込められていて、またロゴやグッズのデザインも完成され、それに防府天満宮を冠に非常に素晴らしいキーコンセプトになっていると思いました。この『防府天満宮で幸せます』のイメージを膨らませていけば、防府市中活ビジョンは素晴らしいものになるはずです！　そこで観光客・来街者を増やすことが念頭にあるかもしれませんが、まずは『**幸せます**暮らし』が中心市街地で営まれる、そんなまちづくりを進めることを提案します。その上で『**幸せます**暮らし』を外の観光客・来街者に“おすそ分け”するというのが防府市の中活に相応しいと思います。

●ハードからソフトへ、モノからコトづくりへ　そして、まちづくりのストーリーへ

防府中心市街地やその周辺には、天満宮を始め多くの資源があります。また JR 高架化・駅前広場整備、区画整理事業・市街地再開発事業など駅周辺の公共施設の整備も進められていて、都市整備としてはしっかり取り組まれて来た街と言えます。

ただし、ハード中心に取り組まれて来た感は否めず、空き地の増加、人口減少、人通りの減少がそれを物語っています。

中心市街地のまちづくりを「ハードからソフトへ」、「モノからコトづくり」へ転換する必要があります。

●まちづくりのストーリーの役者を見つけ・育てる　～まちづくりの担い手が必要です。

ストーリーができれば、役者＝まちづくりの担い手が必要です。

まちづくり・地域づくりの活性化には、「若者・よそ者・バカ者」の３つが必要だと言われています。まちづくりには地域のことを昔から考えて来た方が中心となるのは当然ですが、今あるものを活かしながら絶えず新しい何かを加える必要があります。その時に、新しい発想で次の世代を担う『若者』、地域では考えられない奇想天外な発想をもつ『よそ者』、長い歳月かかるまちづくりを情熱をもって皆んなを引っ張る『バカ者』が重要なまちづくりの役者となります。

地域（商店街）活性化で今話題の
宮崎県日南市油津商店街「ボウリング大会」

地域の主婦が中心の交流活動「まちの学校」
@福岡市東区アイランドシティ

また、『奥様パワー』も欠かせません。あまり公的な場には出られない奥様の中には、非常に優秀で暮らしの創意工夫が素晴らしい達人が多いものです。そうした『奥様パワー』を活かしたまちづくりの担い手を育てることも重要です。

●都市経営的な視点でのまちづくり戦略＝アーバンデザインが必要です。

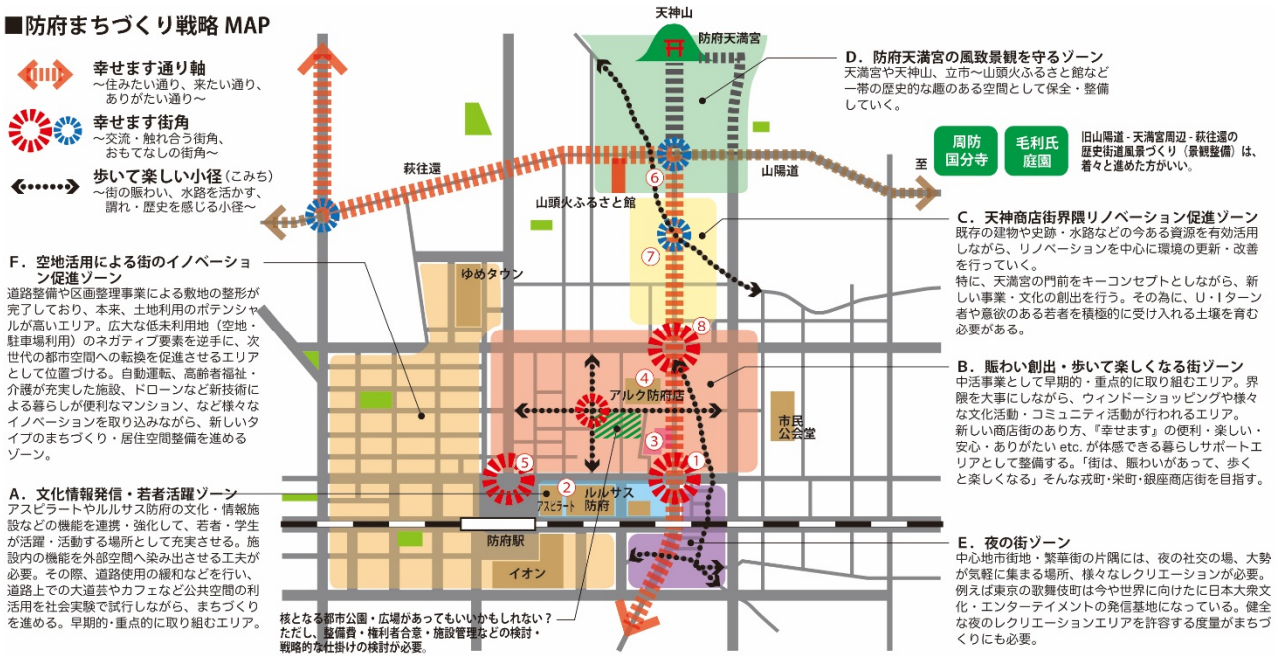
“幸せます”素敵な暮らしができる街に転換するには、街の営み・商売を変えるぐらいの勇気が必要です。多くのまちづくりの役者がその勇気をもつ為には、皆んなで共有する戦略が重要です。その“戦略 MAP”を下に提案します。

【工程】街の構造を考え、短期的に重点的にまちづくりを進めるエリアを絞ることを提案します。駅に至近で都市整備が一旦終えた「A．文化情報発信・若者活躍ゾーン」と、街の課題と可能性

が一番高い「B．賑わい創出・歩いて楽しくなる街ゾーン」において、短期的・重点的に中活事業（①～⑤）を取り組むべきです。一方「Ｆ．空地活用による街のイノベーション促進ゾーン」については、主に民間企業・事業者にまちづくりを委ね、経済・社会状況に合わせて長い目で構えたまちづくりを提案します。社会の技術革新と連動し民間の創意工夫によるまちづくりが望ましいと思われます。

【プレイスメイキング】場所や空間には、集まりやすい場所・のんびりできる場所・新しいモノ・コトを創造する場所など隠されたポテンシャルが潜在しています。その場所のポテンシャルを顕在化させるため、社会実験やイベントを実施し、その場所への注目度・価値を高め、その上で本格的な都市整備を行う手法“プレイスメイキング”の導入を提案します。

【景観・街並み】駅南や駅北西のエリアについては、あまりにも空地が多く、建物が少ないため、居続けるにはツライ印象があります。街としての界隈性や居心地の良さを保つには、古いものを活かした景観、適度な道幅の空間・街並みなどに配慮する必要があります。そして、景観・街並み整備は、街の魅力を高めるのに欠かせません。



■　初めての来訪者の目から防府を見る

栗原　裕（㈲ユー・プラネット）

１．観光客ゾーンと市民生活ゾーンの分離

①　来訪者を迎えるとは

防府市の第一印象は、「この街は観光地なのだろうか」と言うことであった。駅前の印象は日本最古の「防府天満宮」を持つ駅前には思えない。

「防府天満宮」、「毛利氏庭園」、「山頭火の小径」、「旧山陽道」等の歴史的資産を持ち、それを活用すればもっと観光客を呼び込めると思われるのに残念でならない。本来であれば、姫路のように（駅の正面に姫路城が見える）駅から防府天満宮が見えればいいのだが、残念ながら豊富の都市構造はそうなっていない。

それであるならば、駅から「幸せます通り（銀座商店街）」、「天神商店街」、「防府天満宮」を結ぶルートを観光客のためのルートとしてわかりやすくし、誘導する必要がある。また、この南北軸に対して防府天満宮前で交差する「山頭火生家跡」から「防府国分寺」を経て「毛利氏庭園」を結ぶ「旧山陽道」を有機的に結合して活用することが重要であろう。

②　人のための道、街

天満宮商店街の通りや旧山陽道など、道路としてのハード整備は進められている。しかし、来訪者の立場からすると歩きにくい道路である。昼間のみでも車を排除できないのか検討の必要を感じた。

防府天満宮前の旧山陽道は、多分都市計画道路となっているのだろうが、歩道と車道が分離された都市部の普通の道路となってしまっている。観光バス等の進入の問題もあるが「旧山陽道」であるならそれなりの設えをしたかった。

また、防府天満宮前の駐車場（「うめてらす」）もできれば人のための広場としたいところである。来客者の車や観光バスは、少し離れたところ（駅周辺でもいい）に駐車場を設置してまちを歩いてもらうことが重要である。防府天満宮前の駐車場に車を駐め、防府天満宮を見て、目の前の店でお土産を買って帰ってしまうのでは、防府の街の良さを見せる機会がなくなってしまう。

③　観光客誘致と市民生活の利便性は両立は難しい

観光客ゾーンを指定して、観光客が快適に楽しめる道、街を造ることは、沿道住民の日常生活をある程度犠牲にせざるを得ない。

住民の駐車場は裏道側にして、前面道路は歩行者道路化する、道路幅員は減少するが暗渠を開渠にして水の流れを楽しんでもらう等の方策を実施すれば、当然住民の生活は今より不便になってしまう。この問題は他の観光地でも課題となっている。

２．観光地としての活性化を図る

①　観光地としての認知度を如何に上げるか

日本最古の天満宮が「防府天満宮」であること、もっと言えば防府に天満宮があることを知らなかった。関東から抱負が遠いこともあるが、認知度を上げるためのＰＲが不足しているように感じた。

防府駅前に立っても防府天満宮へ至るルートの説明サイン等がすぐに見つからなかった。これでは観光客を呼び込むのは難しい。

行政としては、他に産業もあり（それなりの税収もあり）観光にそれほど力を入れなくていいのかもしれないが、これほどの観光資源を持っているのに残念である。

②　「山頭火」の活用

「山頭火の生家跡」は四阿風に整備されているものの、どこにどのような形で生家があったのかがよく理解できなかった。できれば、用地を取得して以前の生家を復元できればよりインパクトが強くなると思うが、なかなか難しいと思われる。

だが、「山頭火の小径」を整備することは生家復元よりハードルは低いだろう。「山頭火の小径」車の通れない区間が多く、水路が流れている区間、昔ながらの商家、民家塀（煉瓦塀もいくつか見られた）等、趣のある小径であった。

入口、出口をよりわかりやすくし、そこに小さな広場を設置する。沿道の建物ファサード、屏等を修景（助成金等の活用）し、途中に休憩できるポケットパークを設置、そこに種田山頭火の生涯が詳しくわかる資料を掲示する等により、より楽しく歩ける小径になると思う。

これからが楽しみな「防府市」へのコメント

藤本 英子（京都市立芸術大学）

先日はまちのご案内と交流会の設定をありがとうございました。専門的な視点から捉えた考え方を中心に、下記ご提案いたします。

・駅前の空間は、双方ともゆったりとした豊かな印象を与えています。使われていないとマイナスに考えるのではなく、空間の豊かさ、空の広さと捉えると魅力的な駅前空間が既にあると思います。（写真３）

・駅周辺の未利用地では、必要があり空間活用されるときのために、景観上で高さや外壁色がバラバラにならないような準備が、今のうちから必要です。（写真５）

・みなおしたいストリートファニチャーも多くありました。鳥居のすぐ前にも、赤いコーンが駐車禁止のために置かれ、萩往還にはポールの足元に、擬宝珠をつけた短い車止めが、道路全体のデザインとの調和では異質感があるなど、見直すべき部分が多くありました。（写真４）（写真８：駅前駐輪所？）

・リノベーションされた店舗の中には、新しいおしゃれな予感がするお店も見受けられました、センスのいい担い手が手がけられているので、このような活動が地域に根付く配慮が求められると思います。（写真６）

・駅前に新たにできていた集合住宅は低層で美しいものでした。駐車場のデザインなどにも優れ、これからの方向性をリードしてくれる物件だと思いました。

・天満宮から見下ろした街の景観は、山を背景に遠く海が見えるものですが、ここを眺望点とした、山のスカイラインを切らない高さでの制限があれば、明確な目的の高さ制限ができると思います。（写真２）

・天満宮からの眺望を重視すると、屋上を利用した大型屋外広告物の存在が気になりました。理解を得られれば屋上広告物を禁止にしても良いかと思います。
（写真１）

総合的な視点では、萩往還を明確なまちの背骨と捉え、天満宮から海へのラインを意識して整えるところから、まち全体の景観整備を始めると、明確な方向性が市民とともに共有できると思います。

ソフト面では、水の豊かな防府市らしく、水面地図をつくることで、水文化の見直しが、市民の中でさらに進むことでしょう。

全国の塾による夏休みや、年末年始合宿の受け入れが、新たなまちづくりの一歩になると確信いたします。今後の防府市さまの発展を願っております。

1

2

3

4

5

6

7

8

■防府市中活ビジョン検討会の意見及び感想雑記

五百田 定（(有）ワクテク）

【現地視察感想】
天神口駅前広場
・正面道路と商店街の軸線がズレているため、都市軸が駅広からわかりにくい
・駅広縁辺部のまちなみ景観誘導方針はあるのだろうか
ルルサス防府
・閉ざされた施設配置であるため周辺の賑わいを誘発しにくい
・マンション需要が堅調なら都心居住を充実させた展開が全体を繋ぐキーになる
・居住者年齢が高いとのことだが、低層部は若者志向に偏っているのでは
天満宮
・駐車場アプローチは、参詣気分が湧くような演出がない
・境内に、多種の要素が並ぶが説明不足、また統一感がない
・春風楼は、廃仏毀釈の流れと考える方が素直ではないか。眺望解説板が必要
・裏参道を回遊路に組み込めば、面白そう
・満願寺は、一体と捉えるべきではないか
うめてらす
・周辺駐車場は、数倍必要ではないか
・セットバックが、密度感を薄めている、沿道の賑わい演出が欲しい
・三田尻港方向の参道、商店街への連続性が希薄
地蔵
・散見される地蔵や祠をエリアのデザインとして活かせていない
・地蔵を大切にする地区は非行率が低いと聞いたことがあり、活かせそう
水路
・らんかん橋は流れの方向性が見えないので、もうひと押し工夫が欲しい
・水に植物や小動物、水力設備を加えて絵になる環境ができそう
天神通り商店街
・閉店率が高い印象を改善できないか
・アーケードは老朽化が目に付くが危険性があるのではないか
・拡幅してあるのか、参道からの街並みの連続性では処理が難しそう
・名前のわりに天神との関係性がデザイン要素として組み込まれていない
レンガ通り
・天神通りよりも閉店率が少ない
・中央部のスーパー駐車場が沿道の連続性を阻害している
・新規ビルトアップも沿道に賑わいの連続性を意識してほしい
・都心居住エリアとして期待感がある
・駐車場が多いとのことだが、適正量との比較ではどうだろうか
門前町イメージ
・鳥居の外側に広がる門前町イメージの形成戦略が必要

【検討会発言内容】
天満宮の印象
・要素が混在してわかりにくい環境で残念だが、それらをうまく活かして通年観光拠点として魅力としてほしい。
中活ビジョンの方向性
・門前町というキーワードは防府らしさがアピールしやすいので、門前町のメリットを住みやすさ、子育てしやすさ、高齢者へのやさしさなど良さを明確にして中身が伝わるようにしてほしい。
構想案について
・大きな方針と個別事業は述べられているが、それらをうまく繋ぐストーリーが必要
・街区ごと、エリアごと、通りごとに目指すビジョンを組み立て、それらを連携して中活エリアのビジョンとして組み立てる必要がある。そのためには、もっと実態を調査分析し、ゾーンごとの検討会の開催など地道な作業が求められる。
【その他アドバイス】
・中活エリアの外側に住む工場勤労世帯が一部でも都心居住に引き込めれば、中活の目指すコンパクトシティとも合致する
・工場勤労者の子育て世代が多いのが防府市の強みなので、中心部の小学校の良さを磨いて、通わせたくなるイメージ作りも効果がある　（以上）

JUDI 北前船プロジェクト in 防府

伊藤 幹郎（ＩＭＥＡ計画設計事務所）

防府市は、日本三大天満宮の防府天満宮がある都市であるが、人口１２万人を超える都市であり、単なる門前町ということで全ての街づくりが収斂していくものではなく、産業、教育、観光等と多様性のある都市として発展すべきである。

しかし、地方都市の活性化は、定住人口の増加が難しい中では、やはり交流人口の拡大という視点は、重要と言える。防府市の中心市街地活性化計画においては、この視点での強化策は必要であり、地域の資産を再考し、活用するためのストーリーづくりやブラッシュアップは重要な課題と考える。

〇町並みウォッチからのコメント

JR 防府駅前は、整備後２０数年を経て、緑豊かな環境は整備されたが、来訪者には防府天満宮のある街という印象は薄い。僅かに駅舎ポーチ部分のデザインと広場の古い立看板のみである。

来訪者への情報提供、観光・イベント交流等（インバウンド対応？　駅の観光案内所も閉鎖？　スマホ対応？）についても、再考を期待したい。ヒューマンスケール、人の活動が見える街、賑わいづくりがポイント。

土地区画整理事業と再開発事業で整備はされたが、防府天満宮へのアプローチ道路としては、歴史的な側面、デザインやサインを含めて、意識されていないと感じる。

例えば、水の豊かな防府と天神様の再考はポイント。

厳しい言い方であるが、かつての中心商店街としての枠に捕らわれず、新しい活路「門前町」としての再生、ストーリーづくり（天神様の縁日（25 日）の実施や遊休地の活用など）商工業者と行政・市民が連携して取り組めば、街の再生の可能性は極めて高いと思われる。

〇感想

防府天満宮の門前町の再生①と共に、萩街道・三田尻港・周防国分寺・毛利邸等の歴史的遺産の活用②が防府市の街づくりの上で、重要であると考える。

①は、市民参加のもとで公共側が、どこまで門前の道路の再整備を進めるか。商工関係者、住民の利害調整がポイントで関係者の理解と協力が必要。

②は、まずは情報発信、提供のための再調査と PR 作戦であると思う。

JUDI 北前船プロジェクト in 防府　レポート

三木 脩平（ランドブレイン㈱）

【現地視察感想】

・防府駅を降りて、緑が多いイメージがあった。休めるスペースはないと感じた。お土産屋さんもない。
・翌日、朝にモーニングを食べようと彷徨ったが、どこのお店も開いていない（コメダ珈琲のみ）。
・春風楼からまちを見おろせるのは良い空間だと感じたが、展示されている古地図と見比べられる工夫がほしいと感じた。
・水路に関しては、ご意見あったように金沢のせせらぎ通りのようになった場合、どうなるのかシミュレーションするだけでも面白そうだと感じた。
・空き地、空き店舗がとにかく多い印象を持った。一方で個性的で面白そうな店舗もたくさんある印象。
・「天神さまに逢えるまち」と商店街には書かれていたが、現状では天満宮に向かう道を歩いても、神聖な気分にはなれない。
・ルルサスは外からでは、中が見えないので、賑わいが見えづらい。音はよく聞こえる。

【今後について（提案（妄想））】

●空き地の利用

まちあるきをしたエリアは空き地がとにかく多く、利活用や今後の展開などの大きな方向性がない中で、駐車場となっている場所も多いと感じた。そのため、空き地をうまく活かし人が集まれる機会（集える場）を作ってはどうか。例えば、地元商店街のお店を中心に「蚕の市」等を定期的に開催するなど。

（広島では公園等の利活用として「トランクマーケット」や「廣島古物會」が開催されています。）
・https://www.trunkmarket.net/
・http://hiroshima-k.jugem.jp/

●銀座商店街のアーケードの撤去の検討

アーケードの傷み具合、ファサードの不統一、空き店舗（シャッター通り感）の数、全体的に暗いなどから、アーケードを撤去し、「天満宮へ誘う道」として、一先ずファサード等からデザインを統一してはどうか。イメージとしては、福山の「とおり町」など。
・https://www.gakki.com/tooricho/street_garden_project.html
http://www.asahi.com/area/hiroshima/articles/MTW20160809350640001.html

●空き家の活用

まちあるきした萩往還沿いにも当時の姿を残しつつ、内部を改修した店舗等があった。店舗ではないが、「空き家」等も利活用する展開で検討してはどうか。

特に人が集えるコミュニティスペースや少し休憩できる場所がほしいと感じた。

●萩往還のルート整備

萩往還沿いのルートの整備として、「門前町」としての雰囲気を残すデザインを行うなどの工夫を行う。

●体制づくりの強化

なぜ、中活を行うのかといった大きな目標（目的）の意思疎通を行う必要がある。一先ずは中心メンバーを集めて、話会う場を設け、ＷＳを行うなどして、もう少しお互いに意識を共有する場が必要なのではないか。

JUDI 北前船プロジェクト in 防府 レポート

横田 宜明（㈱エイト日本技術開発）

○まちづくり協議会の運営

・まちづくり協議会の運営では、行政に頼らない持続性のある活動が大切で、そのためには協議会自体が収入を得られるような仕組みづくりが必要である。

・例えば、浜松市の「まちなかにぎわい協議会」では、参加企業の出向者が事務局となり民間の知恵を出し合って、持続可能な協議会づくりを進めている。協議会をサポートし、受託業務を実施する「浜松まちなかマネジメント株式会社」を設立し、駅広の広告スペースの指定管理者となり、屋外広告物掲載から収入を得ている。

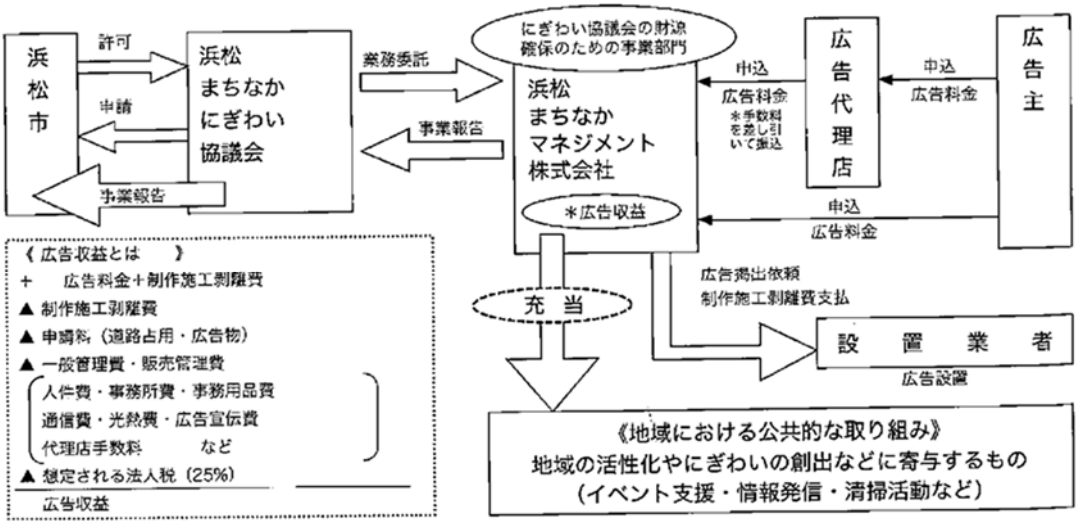


図3　事業の概略

	浜松まちなかにぎわい協議会	浜松まちなかマネジメント株式会社
設立	平成22年4月12日	平成22年10月1日
主な収入	会費	事業収入
法的根拠	任意団体	株式会社
構成員	地元民間企業・団体、浜松市、商工会議所（67団体）	地元民間企業・団体（10団体）
社員	なし	12名

出典：最新エリアマネジメント　小林重敬他　学芸出版

・景観整備機構　防府市は景観行政団体であるので、まちづくり協議会が景観整備機構の役割を担い、中活地域の建築物や屋外広告物のデザイン指導や許可申請の受付などを実施する景観整備機構として、まちなみの景観形成―「防府市ならでは」のまちなみの形成が可能である。

・建築士会等との連携をとり英国 CABE のような組織化による質の高い建築誘導が可能である。

○現地視察のご感想

・防府市には 2008 年 8 月、2011 年 8 月、今回と訪問する機会があり、手持ちの写真で変化を追ってみた。

①防府天満宮前

2008 年には梅テラスが無く寂れていたが、今回訪問して梅テラスを中心に賑いづくりが成功していると感じた

2008 年 8 月

2017 年 5 月

②防府天満宮前西側、旧山陽道沿道

古民家が再生された箇所がいくつかあり、山頭火の生家注、宮市本陣兄部家の復元が進めば相乗効果が期待できる。　　注）山頭火生家跡　平成 29 年 10 月には、山頭火記念館　開館予定

2008 年 8 月

2017 年 5 月

2008 年 8 月　宮市本陣兄部家

2011 年 8 月　火災により消失

2017 年 5 月更地（復原予定）

中村 和泉（都市環境デザイン会議 事務局）

防府のまちは、行く前に聞いていたイメージよりは明るく、人ものんびりしているように感じました。現地を案内していただいて印象に残ったのは、防府天満宮がすばらしかったこと、でもその参道を歩く人は少なくほとんど車で上まで行ってお参りすること、銀座商店街の多くがシャッターが閉まっていたことでした。

特に銀座商店街は、あれだけのアーケードや空間があるのにもったいないと思いました。おしゃれなカフェやおもしろい店が数軒あれば雰囲気も変わるし、人も集まるのではないでしょうか。

さて、２日間防府でお世話になり、東京に帰って最寄の蒲田駅に降り立った時は、駅前広場のあまりの狭さに愕然としてしまいました。防府の駅前はどちらも広々としていたと実感した次第です。

関係者のかたがたにはお世話になり、ありがとうございました。今後は JUDI とのご縁もいかしつつ、中心市街地が活性化するよう願っています。